

令和3年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「一人一台端末を活用した授業改善に向けた支援」

越谷市教育委員会

いきいきとだれもが夢に
向かって輝く越谷教育プラン

施策1-2-2

新しい時代に求められる資質・能力の育成

第3期越谷市教育振興基本計画では「生きる力を育む学校教育を推進する」を基本目標の一つとし、その施策の方向2「確かな学力を育む」における施策として「新しい時代に求められる資質・能力の育成」を位置付けている。越谷市教育委員会では、児童生徒が情報化社会に適応し、情報活用能力を身に付けられるよう、ICTを活用した授業の改善を図り、学習活動の充実に取り組んでいる。また、教育振興基本計画の方向性をふまえ、一人一台端末を効果的に活用した授業の充実に向け、教材の整備や資料提供、教職員研修を実施し、教職員の指導力向上に取り組んでいる。

1 キャリア段階に応じた ICT 活用に係る年次研修

本市は中核市のため、独自で年次研修を実施している。その強みを生かし、各年次研修にICT活用に係る講座を段階的に設定し、教職員のキャリア段階に応じた研修の充実を図っている。

初任者研修

2年次教員研修

5年経験者研修

指導力向上研修 (6～9年次)

中堅教諭等資質向上研修

ICTを活用した授業づくり ・タブレット端末の活用方法 ・ICTを活用した学習場面 プログラミング教育演習	ロイノート・スクールの 基本的な活用方法 ・ロイノートの操作方法 ・学習場面に即した機能紹介	主体的・対話的で深い学びの観点からの 授業改善(ロイノート・スクールの活用) ・授業におけるロイノートの活用法 ・実践の共有、協議	タブレット活用実践研修 (選択講座) ・ロイノート活用演習 ・各学校における実践報告・協議	ICTを効果的に活用した 授業づくりの推進 ・ICTを活用した授業実践報告・協議 ・校内での推進に向けた情報交換
--	---	--	--	---

基礎を学び、基盤を固める

実践を積み重ね、授業改善を行う

専門性を高め、授業改善を推進する



「ロイノート・スクール」について
→本市で活用しているクラウド型授業支援アプリ。児童生徒がカードを教師に提出したり、児童生徒同士で送ったりすることができ、効果的な学び合いの場をつくることができる。



年度当初に市内全教職員にブックレットを配付し、越谷市の目指す教育活動を示している。授業における8つのポイントでは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた重要ポイントの共通理解を図った。

ノートの写真を撮り、友達と感想や作品を交流する。

カードをグループで共有し、考えを比較・検討・共有する。

2 学校のニーズに応じた ICT 活用に係る出前研修

ICTを活用した授業づくりや基本的な操作方法等、学校の要請に応じた校内研修を支援している。演習や協議を取り入れながら、より実践的な明日の授業に生かせる研修となるよう研修の充実を図っている。



学習場面での活用を想定した演習



2 -ICTを活用した授業の在り方-
目的と手段を間違えない



ICTを活用した授業づくりのポイントを共有

3 推進研究員、研究委嘱校への支援

教育委員会では、教育研究員として11名のICT活用推進研究員を委嘱し、資料編集、事業の先行実施等とおして、研修を推進し、成果を市内に広めることで本市教育の伸展充実を図ってきた。

また、令和3年度は、市内小中学校各1校にICT活用研究を委嘱し、取組の成果を市内に発表するとともに、デジタルドリルや端末持ち帰りの実証研究を行い、児童生徒の資質能力の育成、教職員のICT活用指導力の向上を図っている。



タブレット端末の常時の持ち帰りを先行実施し、今後のデジタルドリル導入に向けた実証研究を実施した。また、担当指導主事を派遣して校内研修を実施し、タブレット端末の操作やアプリの活用への教職員の不安感や苦手意識を軽減する支援を行った。

11月に実施した研究発表会では、市内各小中学校から参会者を招き、授業公開、研究発表を行った。研究協議では、小中学校の教職員が日頃の授業におけるICT活用の実践や取組についての情報交換も行った。

4 市内の実践事例の収集、共有

各学校での実践事例を収集し、共有することで、ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を支援している。推進研究員の実践事例のほか、市内小中学校での事例を共有フォルダに掲載し、積極的な活用を促している。

名称▲	ファイル名
01_C2_2	01_C2_おにごっこ_2.pdf
02_C1_1	02_C1_はをへをつかっ_1.pdf
02_C1_2	03_C1_こんなもの、たよ_2.pdf
04_C1_2	04_C1_こんなもの見つたよ_2.pdf
05_C1_3	05_C1_ふしぎな乗りもの_3.pdf
06_A1_3	06_A1_仕事のくふう、見つけたよ_3.pdf
07_C2_4	07_C2_新聞を作ろう_4.pdf

市内教職員がアクセスできるフォルダに校種、教科別で事例を掲載している。令和3年12月現在41事例(小学校24、中学校17)を掲載。今後も随時資料提供を行っていく予定。

C2

協働での意見整理 学年 第2学年 教科等 国語

単元・題材等 身近なことに気をつけて読み、分かったことを知らせよう【おにごっこ】

単元の目標 (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができよう。【知識】
(2) 文章を読み、感じたことや分かったことを共有することができよう。【理解】
(3) 文章の構成や語彙や文法を学んで理解することができよう。【読解】
(4) 読み取った内容の大切な部分を整理して、思いつきや疑問を伝えよう。【表現】

本時の目標 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考え、読み出すことができる。【思考力・判断力・表現力等】 本時

ICT活用の方法・ポイント・効果・課題等

【方法】ロイノットを活用し、教師が事前に用意したモデル文を児童の端末に送信する。児童が自分の作文を撮影し、ロイノットで友達と共有し読み合う。
【ポイント】本時の課題解決の視点を全体で確認してからモデル文を送信し、各自、文中よりキーワードを発見させることで課題解決に向けた見通しをもたせる。読み合いの場面では、友達の作文(カード)に直接感想や改善点を書きこみ、可視化させる。
【効果】モデル文が手元にあることで、児童が安心して課題解決に取り組むことができた。iPadを見せながら対話することにより、より分かりやすく相手に感想や修正点を伝えることができた。
【課題】初めから全ての児童に送るだけでなく、必要な児童に送信するなど、個に応じた効果的な支援の在り方を検討していく。

ICT活用の方法・ポイント・効果・課題等

【方法】ロイノットを活用し、教師が事前に用意したモデル文を児童の端末に送信する。児童が自分の作文を撮影し、ロイノットで友達と共有し読み合う。
【ポイント】本時の課題解決の視点を全体で確認してからモデル文を送信し、各自、文中よりキーワードを発見させることで課題解決に向けた見通しをもたせる。読み合いの場面では、友達の作文(カード)に直接感想や改善点を書きこみ、可視化させる。
【効果】モデル文が手元にあることで、児童が安心して課題解決に取り組むことができた。iPadを見せながら対話することにより、より分かりやすく相手に感想や修正点を伝えることができた。
【課題】初めから全ての児童に送るだけでなく、必要な児童に送信するなど、個に応じた効果的な支援の在り方を検討していく。

写真
友達の文章を読む
モデル文を生かして課題解決に取り組む
感想や改善点を伝え合う

取組の成果と今後の課題

【成果】

- 授業における一人一台端末の活用が進み、9割以上の教職員が授業において様々な方法でタブレット端末を活用することができている。
- 年次研修等を通して、各学校にICT活用を推進する教職員が増えてきた。児童生徒もタブレット端末の操作に慣れ、授業の中で活用することができている。
- ▲教職員や教科等により、活用状況に差が見られるのが現状である。実践事例等の情報提供や研修の実施を通し、教職員への支援を継続していく必要がある。
- ▲今後は、「教師が」活用する授業から、「児童生徒が」一人一台端末を活用し学びを深めていけるような、より効果的な活用方法を普及していく必要がある。

【活用方法】【ポイント】【効果】【課題】と授業における活用の様子を写真付きで簡潔に示し、他の学校や教職員が参考にしやすいようにした。

